

600字物語008

千年桜02

マノン編

エリー

神は慰めを求めて緑の聖域に桜を植えた。

千年経つとマノンという妖精が生まれた。

マノンは、草木と一体となり、神に愛され幸せな毎日を生きた。

そこへ魔王が忍び寄る。

魔王はマノンに愛されたいと願った。けれども醜い本性を知られるのが怖くて言えない。そこでマノンにミミルという弟が生まれると教え、愛を覚えたその魂を食べることにした。

マノンはまだ見ぬ弟を愛し、語りかけた。

そしてミミルが生まれた。

「ミミル、待っていたわ。わたしの弟、わたしの赤ちゃん、わたしの恋人！」

しかしミミルは、マノンにまったく興味がない。好奇心いっぱいにあたりを走り回る。ミミルは言った。

「緑の聖域の外に出して！」

魔王が現れ、桜の木に穴をあけた。

「この穴に飛び込めば出られる」

迷わずミミルは飛び込んだ。

マノンはミミルを追いかけた。

外に出ると二人の魂は消えそうになった。

マノンは言った。

「お願い。ミミルを助けて。わたしの魂をあげるから！」

魔王が魂を食べるとマノンは死んだ。

そして、ミミルだけが緑の聖域に戻った。

ミミルはいつも聞こえていた外からの声を探した。しかし声は二度と聞こえなかった。

それから千年、ミミルは一人で生きた。